

# タイで南紀ミカンPR

## 三重・JA伊勢 3市町の首長 輸出安定へ意見交換

【三重・伊勢】JA伊勢は、三重南紀産かんきつの輸出の安定化と販売の拡大に向け、タイ王国でトップセールスを行った。JAの役員4人と熊野市、御浜町、紀宝町の3首長が現地を訪問。店頭での試食販売などを通じ、消費者にアピールした。在タイ日本国大使館も訪れ、輸出事業の概要や産地の現状について意見を交換した。

参加者は、首都バンコクにある高級量販店や、日系の総合ディスカウントストアなどの売り場を視察。同国を代表する大型小売店を160店舗展開する、セントラルグループの

セントラル・チットロム店では、店頭での試食販売を行い、食味の良さを消費者へアピールした。青果販売や輸入品の担当者や輸入し、着荷状況の確認や販売価格、現地での評判などを確認した。

在タイ日本国大使館では、産地査察費用を産地が負担していることや、日本出発から販売までの時間がかかることで増える腐敗などの問題について訴求。規制緩和の要望などを伝えた。JAの坂口正明営農担当常務は「タイでの販売には果実の外観がとて重要になる。消費者に手に取ってもらうため、高品質の良い果実を安定生産できるよう、しっかりと取り組んでいかないといけない」と話した。

同国への輸出は2011年、生産者の所得向上・安定を目的に始



タイを訪問し、量販店の売り場を視察する役職員

まった。本年度は11、12月に計3回、温州ミカン約19・5トンを輸出した。中晩かん「せとか」と「デコポン」も輸出品目だ。